研究会　宗論

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　s14778mm 松本倫明

<https://www.youtube.com/watch?v=W0LHVMXsXVM>

若旦那の性格

　宗論の中で特に面白いと私が感じたのは、若旦那の性格にある。親旦那が「耶蘇教」を「へそ教」と言い違えて、「やもへも似たようなものだ」と言ったのに対し、若旦那が「ヘリコプターをやりこぷたー等というだろうか」と反論する。このやり取りを聞いている側からすると、若旦那が親旦那を意図して揶揄っているように見えるかもしれない。しかし若旦那は真摯に親旦那に訴えかけているのだろう。若旦那が真摯であるからこそ、考えや信仰の噛み合わない二人のやり取りが面白くなるのだと、私は感じた。

宗教をネタにする面白さ

　日本において、宗教はそれぞれの人が自分の宗教を信じている。公で自分が何教を信じているのか言い難いし、相手が何を信じているか解らないので宗教のネタを取り上げるのも、やや抵抗がある。

　しかし宗論では、キリスト教が大いにネタにされている。マリアが処女で子供を産むわけがない、といったようにキリスト教徒にとって事実であることをありえない、と言って笑いをとっている。沢山の聴衆を前に宗教を論じられるのは、長年の経験を積んだ大物の落語家であるからだろうか。